

## 日本列島付加体中の層状マンガニ床形成の古海洋学的意義

## Stratiform manganese deposits in accretionary complexes of Japan: a paleoceanographic formation model

# 小室 光世 [1]; 伊藤 孝 [2]; 加藤 泰浩 [3]

# Kosei Komuro[1]; Takashi Ito[2]; Yasuhiro Kato[3]

[1] 筑波大・生命環境; [2] 茨城大学・教育; [3] 東大・工・地球システム

[1] Life Environment. Sci., Univ. Tsukuba; [2] College of Education, Ibaraki University; [3] Geosystem Eng., Univ. of Tokyo

<http://www.geol.tsukuba.ac.jp/EarthResource/index.htm>

日本列島の中古生界付加体のチャート-砕屑岩シーケンス中には多くの層状マンガニ床が見出される。これらは、主に三畳紀後期とジュラ紀中期と2つの層準に見出され、層状チャート中に母岩と整合的に層状ないしレンズ状に胚胎する。床近傍では、下盤側より層状チャート、黒色頁岩、塊状チャート、マンガニ床石、層状チャートの一連の層序が認められる。本研究では、一連の層序、化学組成と硫黄同位体比の分布などを統一的に説明する生成モデルを構築した。高塩分・高酸素の暖かい表層海水の停滞した深層環境への供給が床の形成を引き起こしたものと考えられる。